

# 2025 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC (九州大学)

## 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2025 年度秋季大会は、福岡市博多区の福岡国際会議場において、10月20日(月)～10月22日(水)に開催され、696名(会員561名、非会員135名)の参加がありました。今年度の秋季大会では、通常セッションに加え、「惑星地震学」、「情報科学との融合による地震研究の加速」、「群発地震の発生メカニズムの解明に向けて」、「兵庫県南部地震から30年：内陸地震研究・ハザード予測の進展と展望」、「2025年7月30日カムチャツカ半島地震」の5件の特別セッションが開催され、活発な議論がなされました。なお、プログラム確定後の講演発表数は口頭214件、ポスター203件の合計417件でした。

また、日本地震学会賞、論文賞、若手学術奨励賞の授賞式および記念講演も行われました。日本地震学会賞1名、若手学術奨励賞3名の受賞者による記念講演を大会1日目の午後に設けました。大会3日間ともに4会場同時並行で口頭セッション(受賞記念講演を除く)を行い、口頭発表の時間は原則として1件あたり15分(講演12分、質疑3分)としました。なお、ポスターセッションは1日目と2日目の口頭セッション終了後にコアタイムを設けて実施しました。

講演申込、参加登録、参加登録料及び投稿料の支払い、懇親会の申し込み及び支払いはウェブサイト上で受け付けました。今年度も参加者に名札を印刷・持参して頂く方式としました。また、講演予稿集は電子版のみとし、参加登録をして頂いた会員には、予稿集ダウンロードのためのURLとパスワードをプログラム公開時期にあわせて連絡しました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象としました。95件の発表を選考委員会で審査した結果、10名の受賞者を決定しました。

また昨年度に引き続き、学生やポスドクなどの若手をターゲットとしたランチョンセミナーを、大会・企画委員会主催で実施しました。「ランチョンセミナー1：物理深層学習PINNの基本プログラミング講習」(理化学研究所岡崎智久研究員、東京大学地震研究所共同利用特定共同研究B「科学的機械学習(SciML)による固体地球科学の加速」有志との共同主催)を1日目に、「ランチョンセミナー2：地震研究者ってどんな仕事？先輩にリアルな経験を聞いてみよう！2025」(京都大学大学院工学研究科吉

光奈奈助教、産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層・火山研究部門内出崇彦研究グループ長)を3日目にに行いました。合わせて約90名が参加し、質疑応答も活発に行われるなど、大変盛況でした。

秋季大会の準備、運営面では、九州大学の地震学会員からなるLOCの皆様にも全面的にお世話になりました。LOCの皆様の献身的なご尽力により、福岡大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。

さて、来年度の秋季大会は名古屋市のウインクあいちにおいて、2026年11月4日(水)～11月6日(金)の日程で開催される予定です。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様、講演いただいた皆様、そしてご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

## LOCからの報告

### 1. 秋季大会

2025 年度秋季大会は、福岡市博多区の福岡国際会議場にて開催されました。運営を担うLOCは、九州大学のメンバー10名で構成されました。

福岡市での秋季大会の開催は、2004年度以来21年ぶりとなります。今回は福岡市中心部にほど近い九州大学箱崎キャンパスで実施されましたが、現在の九州大学のメインキャンパスは、はるか西方の福岡市西区に移転しており、交通の便が非常に悪いため、今回は福岡市博多区にある福岡国際会議場の4階と5階を使用することとしました。

この国際会議場は、周辺の宿泊施設や飲食店が充実しているほか、各会議室の収容人数や会場内の動線などの利便性にも優れています。また、会場の映像・音響設備、演台や座席のシステムも充実しており、会場内の無料Wi-Fi回線もストレスなく利用できました。館内での飲食制限がないため、昼食を取りながらの会合やセミナーの開催が可能であった点も、大きな利点でした。

ただし、最大のA会場でも定員が420席であったため、学会賞表彰式や記念講演会など、参加者全員が集まるには手狭でした。そのため、B会場へのZoomによるオンライン配信を実施しました。オンライン配信はLOCメンバーがZOOMを用いて行いました。事前のテストでは順調でしたが、本番時に機器トラブルが発生し、B会場への配信

が一部乱れたことについては、深くお詫び申し上げます。

ポスター発表は200件余りとなり、約100枚の掲示が可能な会場にて、2日間の日替わり方式で実施しました。ポスターボードは縦型で、隣接するボードの発表者や閲覧者で混み合うため、2連ごとに間隔を空けて余裕を持って配置したつもりでしたが、コアタイムには多くの参加者が入室して混雑したため、急遽一部の発表ボードをロビーや廊下に展開しました。混雑防止の観点から、ポスター発表を3日間の日替わり方式で実施したほうが良かったかもしれないというのが、今回の反省点です。

本年度の大会では、大会2日目の夜に福岡サンパレスにて懇親会を実施しました。今年度は昨年度に引き続き、予稿投稿に使用したオンラインシステムを活用して、懇親会の参加申し込みや決済を行いました。懇親会には定員と設定した150名の満席の申込があり、会場は終始賑わいを見せました。当日は福岡管区気象台長の中辻 剛様にもお越しいただき、冒頭にご挨拶を賜りました。その後、参加者は福岡名物の豚骨ラーメンなどの料理と飲み物を楽しみました。また京都大学名誉教授の飯尾先生のご発案で福岡・佐賀・長崎・山口の銘酒を用意した「飯尾酒店」も会場の一角に設置され、和やかで活発な交流を深める場となりました。今回の懇親会では十分に料理を用意したつもりでしたが、地震学会員の旺盛な食欲には追いつかず、あっという間に料理の皿がすべて空になってしまいました。来年度の名古屋大会のLOCには、会員の食欲についても申し送りを行いたいと思います。

最後になりますが、秋季大会の開催に際し、九州大学の学生の皆さんにアルバイトとして運営にご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。ご協力いただいた学生のほとんどは、学会に初めて触れる方々でしたが、業務内容を迅速に理解し、円滑な運営を力強くサポートしていただきました。

また、大会の関係者ならびにご参加いただいた皆様にも、心より感謝申し上げます。皆様のご支援とご協力により、秋季大会を無事に成功させることができました。

## 2. 一般公開セミナー

2025年度の一般公開セミナーは、福岡県、福岡管区気象台、九州大学の後援、福岡市の協力のもと、秋季大会の前日に、福岡国際会議場で以下の内容で開催されました。

タイトル：

「福岡県西方沖地震から20年：福岡の地震を振り返り、将来の地震に備える」

日時：2025年10月19日（日）13:30～16:30

（開場13:00）

場所：福岡国際会議場5階国際会議室

プログラム：

「九州・福岡の地震とその背後にあるもの」

九州大学理学研究院 教授 松本 聡

「福岡県の活断層：何を学んで、どう備える？」

産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門

副研究部門長 宮下由香里

「地震が起きる前に知っておきたいこと」

九州大学人間環境学研究院 教授 神野達夫

「気象庁の発表する地震津波情報」

福岡管区気象台 地震津波対策調整官 山田安之

「福岡県の地震対策について」

福岡県防災企画課 参事補佐兼防災企画係長 塩川靖教

「福岡市の地震に強いまちづくり」

福岡市建築物安全推進課 耐震化促進係長 中島淳二

福岡市地域防災課 連携推進係長 杉谷俊介

2025年は、2005年の福岡県西方沖地震から20年という節目の年にあたり、本セミナーでは、福岡に影響を与えた地震を改めて振り返るとともに、警固断層をはじめとする断層活動による将来の地震に備え、防災意識を高めていただくことを目的として、6名の講演者にご登壇いただきました。

前半の3件の講演では、九州地方の過去の地震活動や現状、警固断層をはじめとする県内の活断層、そして地震動による地盤や建物の揺れについて、九州大学の松本教授・神野教授、産業技術総合研究所の宮下様より、専門的な内容をわかりやすく解説していただきました。後半の3件の講演では、福岡管区気象台の山田様から2005年西方沖地震当時の対応と、その後の観測・情報発信の進展についてお話しいただきました。また、福岡県の塩川様、福岡市の中島様、杉谷様からは、県内における地震防災の取り組みや防災アプリの紹介、さらに福岡市の耐震補助制度についてご説明をいただきました。

会場ロビーでは、福岡管区気象台、福岡県、福岡市によるブース展示も行われ、多くの参加者が熱心に足を運び、関心を寄せていました。

参加者アンケートでは、講演数を多くした分「講演や質疑応答の時間をもう少し長くしてほしい」との意見がある一方で、研究者から行政まで多様な視点の発表を評価する声や「毎年このようなセミナーを開催してほしい」との声も寄せられました。

今年度は一般公開セミナーの開催補助の科研費が残念な

がら不採択となり、限られた予算での開催となりましたが、県内の中学校・高等学校、市内の公共施設にチラシを配布するなど、福岡県民の皆様への広報にも力を注ぎました。その結果、当日は103名の方にご来場いただくことができました。また、チラシのデザインをご厚意でご制作くださった京都大学の吉光様、さらに福岡市内の公共施設へのチラシ配布にご協力くださった福岡観光コンベンションビューローの中上様に、深く感謝申し上げます。今回のセミナーを通し、福岡県民の皆様の防災意識の向上に貢献できれば幸いです。

2025年度秋季大会 LOC 構成員（秋季大会当日の時点）：  
相澤広記・池田達紀・江本賢太郎・金嶋 聡・神野達夫・  
北村圭吾・重藤迪子・馬場 慧・松島 健・松本 聡（五十音順）

○出展団体（順不同）

白山工業株式会社

株式会社クローネ

株式会社ジオシス

イネーブラー株式会社

株式会社 勝島製作所

株式会社 ホームサイズモメータ

セイコーエプソン株式会社

株式会社東京測振

テガラ株式会社

Springer（書籍販売）

Earth, Planets and Space 誌（書籍展示）

## 2025 年度秋季大会 ランチョンセミナー実施報告

大会・企画委員会

2025年10月20日(月)~22日(水)に福岡市博多区の福岡国際会議場で開催された日本地震学会2025年度秋季大会において、学生やポストドクをはじめとする若手を対象としたランチョンセミナーを実施しました。今回は2つのセミナーを行い、約90名の参加者が集まりました。実施後のアンケートでは、両セミナーとも回答者全員から「非常に役立った」もしくは「役立った」と高い評価をいただきました。

まず2025年10月20日(月)のランチタイムには「ランチョンセミナー1：物理深層学習PINNの基本プログラミング講習」を、東京大学地震研究所共同利用特定共同研究B「科学的機械学習(SciML)による固体地球科学の加速」有志との共同主催で開催しました。岡崎智久研究員(理化学研究所)より、深層学習で物理現象を解析するPINN(Physics-Informed Neural Networks)について、仕組みが分かりコードが書けるためのミニマルな基礎知識・実装方法を解説しました。質疑応答も活発に行われ、大いに盛り上がりを見せました。なおセミナーで使用したコードおよび解説資料はGitHubに公開されており、秋季大会ホームページおよびプログラム公開サイトよりアクセス可です。

2025年10月22日(水)のランチタイムには「ランチョンセミナー2：地震研究者ってどんな仕事？先輩にリアルな経験を聞いてみよう！2025」を開催しました。現役の研究者である吉光奈奈助教(京都大学大学院工学研究科)と内出崇彦研究グループ長(産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層・火山研究部門)の2名から、それぞれのキャリアパスについて語っていただきました。日々のスケジュールやキャリア選択のポイントなど、具体的な事例を交えた話が紹介され、学生や若手研究者にとって貴重な機会となりました。

秋季大会におけるランチョンセミナーは、若手研究者支援の一環として今後も継続していく予定です。



ランチョンセミナー1の様子



ランチョンセミナー2の様子